

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 1月 5日

事業所名:すだち坂上

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		それぞれの用途により、部屋が分かれている。	
	2	職員の配置数は適切である	6			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		定期的なモニタリングの実施	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			自己評価表を公表したことを職員全体に周知出来るように呼びかけ
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		ブログに自己評価票の公表をアップする	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			コロナ禍のため、研修の機会が減ってきているが、ホームページなどをチェックして積極的に参加を呼び掛けていく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6		連絡帳などをとおして、保護者の方との関係を作っていくようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		個々に合った支援を常にスタッフが気がかけている。	「良い」と思った事を試していける環境を作っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		スタッフが得意な事などを多く取り入れていけるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		様々な事業の活動内容などを参考にしていく。	インターネットなどを活用し、常に情報を集められるようする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		お出かけの計画やコロナ禍でも安全に楽しく行える活動の計画	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		経験を増やしていく為の計画作成を心がけている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		何気ないことでも話せる職場の環境作り	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			日々の記録の作成、見直し、振り返りを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2			現在、医療的ケアが必要な子は利用者としてはいないが、受け入れられるように研修等、積極的に参加していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳を活用したり、送迎時に一日の様子を知らせている。	些細なことでも相談できる体制や話しやすい環境を心掛けながら、保護者の方への対応をしていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6				
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4		要望があれば開催するように努めるが、今のところ要望はない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		迅速、丁寧に対応していく。	安易な事を言うのではなく、事業所に持ち帰り、解決策を出せるようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・ブログを作成している。	・ブログにアップする時はその時の様子などわかりやすいようにしている。 ・写真なども載せながら、楽しんでも見れるものを心掛けている。
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		・機会がないので、利用者さんの負担を含めて、考慮していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6		・保護者の方にはまだ周知していないこともある。これから、マップやマニュアルを見直しながら、周知してもらえようように努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	・毎月のプログラムに組み込み、子どもたちと一緒にしている。	・避難経路の確認、避難場所確認などスタッフが把握できるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	・アレルギー表の作成	・スタッフ全員が周知できるようにする。 ・医師の指示がない場合は親からの聞き取りで実行している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・事例等を用いての研修を行っていくようにする。